



長崎県国際理解教育研究大会 平成27年7月24日(金)

在外教育施設での教育実践

<p>アブダビ日本人学校における実践と課題 西彼杵郡時津町立時津東小学校 三好 豪 先生</p>		<p>アブダビの概要, 日本人学校の様子についての実践報告がありました。質疑応答では, アブダビ日本人学校の特色の一つである, U A E 国民児童受け入れプログラムについての質問が多くなされました。13 (U A E 国民児童) / 52人 (全校児童) という割合に, 会場からは驚きの声があがっていました。</p>
<p>バハレーン日本人学校での教育実践 長崎市立桜町小学校 澄川 利樹 先生</p>		<p>バハレーン日本人学校における特色ある教育として, 小中一緒の教育, 世界で働く日本人に学ぶ教育, 外国人の中での教育などの実践報告がなされました。「アラブの春」でのデモ活動を経験された中から, 「どのような優れた教育も, 「平和」という礎なしには成り立たない。国際理解教育は, 唯一つ, 平和を希求するためにあるものだ。」という言葉が印象的でした。</p>

国際理解教育研修会 (講演会)

<p>国際理解教育について 長崎市教育委員会 学校教育課 指導主事 久松 千樹 先生</p>		<p>ワークショップを取り入れられた講演の中で, 国際理解教育は, 「知る」→「気づく」→「動く」のサイクルで育まれていくもので, 知識をもつだけでなく, 人と人のやりとりの見えない関係性に気づき行動することや, 人を大切にすることをベースとしたコミュニケーション能力の向上が大切であるという話があり, 大変有意義な講演会でした。</p>
--	---	---